

地域共生社会の実現に向けた地域づくり

令和元年7月19日（金）14：00～16：30 旭公会堂ホール（来場者数179名）

1.講演会「地域共生社会の実現に向けた地域づくり」

講師 和田敏明氏（ルーテル学院大学名誉教授）

■社会・環境が変化

- 2100年には日本の人口は5000万人未満に
- 世帯構成は、多世代同居→核家族→単身世帯へ
- OECD先進国の中でつながりがもっとも薄い国に



■これからの福祉は

- 社会福祉法の改正：従来の「福祉」「介護」「介護予防」「保健医療」だけでなく「住まい」「就労」「教育」も含めて『地域生活課題』に取り組む
- 社会的孤立にしない。誰もがあらゆる活動に参加する機会が確保されるように

■旭区のこれからの活動を考える

- 「声かけ、見守り、居場所づくり、ちょっとした手助け」は、従来は地域の中で自然に行なわれていた。これを意識的に地域にもう一回復活させたり、維持していくことが大事。いま本気でやらないと、地域社会のつながりが完全に失われてしまう
→当たり前のことをみんなで意識的にやっぺいこう
- 「地域は様々な人を受け入れ、お互いに支え合う場であると同時に、異質な人々を排除してしまう側面もある。様々な差別や偏見を解消し、排除しない地域づくりを」
→いろいろな人がいるのが当たり前の社会という考え方（ノーマライゼーション）でいこう
- 「自らの関心を普段のネットワーク内に留めない。外側にある人や活動と出会う機会づくりが大切」
→障害者との接し方が分からなかったら、障害者施設を訪問してみよう
- 「制度の利用や他者の援助を受けなくなることをゴールとせず、必要に応じて利用しながら、他者との関わりで生きていく力をつけ、自らも社会参加・社会貢献していく。『共感に基づく連帯の支援』が必要」
→「困っていることはありますか？」だけでなく「あなたにできることはありますか？」

e.g.) 「挨拶活動はばかにならない。男性が若い女性に挨拶すると最初は不審がられても、挨拶し続ける→天気など簡単な話ができる→会話ができる→ちょっとした相談ができる→知らせる→誘う、とつながりができる」

e.g.) 「ちょっとした困りごとを、少額の謝金で気軽に頼めるような活動を小さな地域ごとにつくることで、多くの住民が助け合う地域をつくっていく。活動費確保のために、多くの住民の参加や知恵で方策を考える」

2.パネルディスカッション

地域の中のみんなの居場所～ごとうさんち食堂

－後藤智氏・後藤喜代子氏

- 父が亡くなり、母が施設入所したことで、自宅1階スペースが空いた。5年ほど前から「子ども食堂」に関心（調理師免許あり）。昨年11月に旭区地域福祉保健計画推進研修で栗林知絵子氏の話聞いて自分でもやりたいと考え、旭区社協へ相談。
- かねてから思いを伝えていた友人や知り合いが、朝採れ野菜やバルーンアート、力仕事、皿洗いなどで協力。後藤さんご夫婦も花を植えたり、献立を考えたりする楽しみが増えた。来てくれる人、手伝ってくれる人が「楽しかったね」と思える場所にしたい。
- 周囲には最初、「一年間だけ見守ってください」とお願い。また連合自治会、地区社協、民生委員へ事前説明に行き、地域へのPRを協力依頼。



お茶べりサロン「さんさん」

－二俣川ニュータウン地区社協 会長 宮寺良孝氏・副会長 熊倉和枝氏・福本瑠美子氏

- 地区内ではボランティア活動が活発に展開されてきたが、メンバーの高齢化により配食グループとミニデイサービスが解散。それに伴い第4水曜日の町内会館が空いたため、ニーズのアンケートをとったうえで地区社協主催でサロンを起ち上げ。
- コーヒー・緑茶・紅茶は用意。昼食（お弁当）・お菓子等の持ち込み自由。プログラムはなし。地区社協が担うことで門戸がより広く、担い手が中心となった今までの活動から、参加と担い手の区別なく、みんなで作り上げる場所になった。
- 参加者・担い手双方にとって「楽しく」「気軽に」「無理なく」「自由に」。



- ★場所の確保：公的な場所は抽選制など使いにくいことも。スーパーの2F、郵便局、銀行の会議室、個人宅など、どんどん開拓を。
- ★タダでやらない：100円でも払うほうが気楽に参加できる。
- ★協力者を探す：花を育てている方に花を提供してもらうなど。
- ★自治会・民生委員などに事前説明：活動をするうえで理解が広がる。

<来場者アンケートから（抜粋）>

- 和田先生には本当に分かりやすくお話を整理していただき感謝。力をもらうことができた。
- 重く考えず「少しでも手伝う」という思いが重要なのかなーと感じました。
- 先日閉店した薬局（地域のたまり場になっていた）の方にサロンをつかってほしいと自治会長からお話をしていただいたところ、週1～2回お店を開けてくれることになりました。
- 趣味を生かして楽しめる事が長続きの秘訣であり、なんといっても地域の理解の必要性を感じました。
- 障害者の通所施設にもできることがあるのではと思いました。
- 地域における助け合い活動の必要性の再認識。
- 後藤夫妻のお話に感動しました。地域がどのように支援できるか伺いたい。
- 第4期地域福祉保健計画策定に反映するポイントが見えました。

